

鶏肉情勢

令和5年5月12日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
供給	<p>1. 国内</p> <p>(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和5年3月末実施)によると、3月の推計実績は処理羽数64,760千羽(前年比99.1%)、処理重量197.2千ト(同100.2%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.6%の下方修正、処理重量は、0.6%上方修正された。寒さが和らいだことで鶏舎の環境が安定し、大腸菌症が減少。増体も比較的順調になっている模様。</p> <p>(2) 4月の計画は処理羽数、処理重量とも前年をわずかに下回る見通しとなっている。地区別で見ると処理羽数、処理重量とも関東地区、北部九州地区で前年を上回る見通しであり、北海道・東北地区、中部地区、近畿・中国・四国地区、南九州地区は前年を下回る見通しである。鳥インフルエンザの発生は、4月は2例と発生を抑えられているが、前年は5月まで発生しており、今後も予断を許さない状況である。工場の人員不足は引き続き厳しい状況が続いており、加工品(切り身・手羽中二ツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整は続くと思われる。</p>
	<p>2. 輸入</p> <p>(1) 財務省4月27日公表の貿易統計によると令和5年3月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+0.4千トの47.5千トで、国別ではブラジル・タイ共に前月並みとなっている。前年同月の実績に対しては+2.4千トとなった。タイ産の輸入量がほぼ完全に回復し、ブラジル産・米国産共に安定した数量となっている。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、4月が41.8千ト(前年比95.9%)、5月が48.8千ト(前年比114.9%)となっている。4月は前月に比べ減少が予想される。ブラジル産の現地価格は高止まり傾向ととなり、先物のオフアにおいては高値の話が聞こえている。今後の国内価格市場へどのような影響が起きるか注視していきたい。需要としては国産も肉の価格が徐々に下降傾向となり、今後の需要は落ち着いていくことが予想される。タイ産は引き続き安定した入荷が予想されるが、現地価格は上昇傾向となり、国産ムネ肉への影響が考えられる。</p> <p>(2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から+8.5千トの40.6千トで、国別では中国が+5.7千ト、タイが+2.9千トとなった。前年同月の実績に対しては▲7.2千トとなり、前月比は上回ったが前年比は下回る結果となった。タイの生産は回復し3月実績は増加となった。令和4年4月～令和5年3月累計では前年比100.8%となっている。価格については依然として高騰しており、上昇傾向が予想される。外食についてはコロナ前に回復しつつあり、中食・総菜向け等の引き合いも継続して強い状況である。</p> <p>(3) 財務省が4月27日に公表した貿易統計によると3月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より2.0%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より18.3%上昇した。国別ではブラジル産の価格が274円/kg(前月比10円安)、タイ産が347円/kg(同9円高)となっている(国別平均価格)。前年比では上昇傾向の状況である。ブラジル産は3月実績では下げ基調となっているものの、国内市場価格は高止まり感が出ている。先物については強気の価格が提示されているとの話が聞こえており、為替の影響もあるが上昇傾向となることが予想される。タイ産についても現地価格が上げ基調になっているとの話が聞こえており、今後の国産鶏肉への影響を注視したい。</p>
需要	<p>1. 家計消費</p> <p>(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和5年3月の生鮮肉消費(購入)は数量4,200g(前年比95.0%)、金額6,352円(同100.1%)と、数量は前年を下回り、金額は前年を上回った。鶏肉は数量1,497g(同96.6%)・金額1,511円(同105.0%)・単価100.9円/100g(前年同月+8.1円)と、数量は前年を下回り、金額・単価とも前年を上回る結果となった。調理食品が金額12,131円(同103.3%)、外食が14,758円(同131.9%)となっている。あらゆる商品の値上げが相次ぐ中、相場高騰により鶏肉の店頭売価も上がり、買い控えが進んだと思われる。外食においては、行動制限もなく、加えて入国規制緩和による外国人旅行者によるインバウンド需要もあり、コロナ前に戻りつつあると考えられる。</p>
	<p>2. 量販・卸</p> <p>(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和5年3月の食品売上高は全店ベースで前年比102.1%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同99.2%、既存店ベースは同98.2%となった。また、畜産部門の売上高は約1,138.8億円で全店ベース同102.1%、既存店ベース同101.5%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、前年に比べ、高めの気温、行楽需要や花見需要が回復した恩恵が加わったが、食品価格の高止まり傾向が続くなか、依然として買上点数の減少は続いている。外出機会の増加による家庭内消費需要の減少と節約志向による内食・中食需要の拡大という、読みにくい消費環境が続いているとのこと。畜産部門においては、精肉全般で相場高が続いており、買上点数の減少が続いていたが、豚肉・鶏肉ではやや回復傾向がみられた。牛肉では焼肉用の動きが良いが、和牛など高単価商品の動きが鈍い。低価格商品に需要がシフトしており、売上高は確保できても利益が取れない状況が続いているとのこと。</p>
	<p>3. 業務・加工筋</p> <p>(1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによると令和5年3月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比100.5%の4.7千トとなった。うち国内品は同97.3%の3.7千トと前年を下回り、輸入品については同114.0%の1.0千トと前年を上回った。</p>
在庫	<p>1. 令和5年3月</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産27.0千ト(前年比83.2%・前月差+2.0千ト)、輸入品126.9千ト(同101.4%・同▲1.2千ト)と合計で153.9千ト(同97.6%・同+0.8千ト)となった。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、3月の出回り量は国産141.0千ト(前年比97.0%・前月差+7.9千ト)、輸入品48.8千ト(同99.1%・同+4.2千ト)と合計で189.8千ト(同97.6%・同+12.1千ト)となった。4月以降の国産在庫については、物価上昇に伴う家計防衛意識の高まりで消費が減衰している影響で、増加していくと予測する。輸入鶏肉については(独)農畜産業振興機構(ALIC)の予測では、入荷量は、4月はブラジル産の輸入量が減少し前年同月を下回る予測となっているものの、5月についてはタイ産が新型コロナウイルス感染拡大による作業員不足が解消され、回復基調にあることから、前年を同月を上回ると予測されている。</p>
相場	<p>1. 令和5年4月動向</p> <p>(1) 令和5年4月の月平均相場は、モモ肉789円/kg(前月差▲10円)・ムネ肉410円/kg(同▲1円)正肉合計で1,199円/2kgと前月を11円下回り、前年同月を262円上回った。モモ肉相場は月初788円、月末は782円となり(昨年は月初619円、月末625円で6円の上げ)、昨年の相場を大幅に上回った。寒さも和らいだことや、鳥インフルエンザの発生が抑えられたことで生産は順調に推移している。相場高騰の煽りを受け、モモ肉の販売は苦戦している。各社で投げ売りの動きもあるとの声も聞かれ、凍結回しが増えてきている。ムネ肉は鳥インフルエンザによる採卵鶏の親鳥不足の影響もあり、冷凍品の引き合いは引き続き強い。相場は緩やかな下落傾向にあるが、4月も引き続き高水準を維持した。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) 5月の生産量は、若干、前年を上回る計画である。寒さも和らぎ、生産は順調に推移していくと思われる。量販店は相場高の影響もあるため国産モモ肉による特売がなかなか打ちづらい状況のようだ。輸入モモ肉(解凍品)を価格訴求品として販売している店舗も一部あるものの、傾向としては前月よりもフェースを占める割合は減少しているようだ。世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の影響が弱まったことに伴う旺盛なインバウンド需要等から国産・輸入鶏肉ともに外食筋向けに使用されているという話も聞かれる。加工原料は数量確保のため、輸入品に切り替える動きも聞かれるが、国産品は相変わらず引き合いは強い。以上のことから、モモ肉相場・ムネ肉相場ともに下げのモモ肉相場月平均775円、ムネ肉相場月平均400円と予測する。</p> <p>(2) 5月に入り消費者の家計防衛意識が高まっているに伴い、量販店の販売は落ち込みつつある。昨年から減少していた冷凍品在庫も徐々に積み増ししている状況だ。外食についてはインバウンド需要の高まり等から動きが良いという話も聞かれるため期待したい。豚肉については連休明けより出荷頭数が減少するものの、輸入品在庫は多いと聞かれる。鳥インフルエンザの影響による採卵鶏の親鳥の不足、輸入品の値上げ基調もあり、加えて、今後も食品をはじめ様々な物価高騰による値上げが続くことから、節約志向が働き、他の畜種と比較すれば安価な鶏肉の販売は順調に推移すると思われる。下げ基調であるものの鶏肉相場は例年にない高水準で推移していくと思われる。</p>

実績											
生産状況											
単位:千羽、千トン、%											
	R4年累計		R5年3月推計実績		R5年4月計画		R5年5月計画		R5年6月計画		
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	
入雛羽数	774,648	100.1%	64,185	100.9%	64,576	99.2%	63,708	101.3%	62,419	102.6%	
処理羽数	737,283	100.4%	64,760	99.1%	61,676	99.0%	63,839	102.5%	61,668	101.3%	
処理重量	2,216.4	99.9%	197.2	100.2%	185.0	98.4%	188.4	101.2%	184.6	100.4%	
※参考資料:㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」											
輸入動向											
単位:千トン、%											
品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年10月	53.9	51.2	105.3	44.1	35.2	125.4	98.1	86.4	113.5	55.0	45.0
R4年11月	49.8	57.8	86.2	43.1	43.8	98.5	92.9	101.5	91.5	53.6	46.4
R4年12月	44.3	60.7	73.0	40.4	48.2	83.8	84.7	108.9	77.8	52.3	47.7
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年1月	44.4	53.8	82.5	34.3	43.2	79.4	78.7	97.0	81.1	56.4	43.6
R5年2月	47.1	49.6	95.0	32.1	38.8	82.7	79.2	88.4	89.6	59.5	40.5
R5年3月	47.5	45.1	105.3	40.6	47.8	84.9	88.1	92.9	94.8	54.0	46.0
※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」											
鶏肉の消費動向											
単位:グラム、円、%											
履歴	数量			金額			相場(年別・暦年)				
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比				単位:円	
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9	H27年	639	336	975	
R4年10月	1,574	1,559	96.5	1,534	1,424	100.2	H28年	621	255	876	
R4年11月	1,495	1,536	97.3	1,505	1,429	105.3	H29年	626	315	941	
R4年12月	1,729	1,695	102.0	1,854	1,702	108.9	H30年	595	282	877	
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7	R元年	585	243	828	
R5年1月	1,491	1,563	95.4	1,559	1,450	107.5	R2年	614	269	883	
R5年2月	1,402	1,483	94.5	1,475	1,404	105.1	R3年	641	313	954	
R5年3月	1,497	1,550	96.6	1,511	1,439	105.0	R4年	662	348	1,010	
※参考資料:総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)											
在庫状況(推定)											
単位:千トン、%											
履歴	国産			輸入品			合計				
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R4年10月	25.2	34.7	72.7	127.5	108.2	117.8	152.7	142.9	106.9		
R4年11月	23.4	33.6	69.7	129.9	114.7	113.3	153.3	148.2	103.4		
R4年12月	24.6	35.5	69.5	124.2	114.4	108.5	148.8	149.9	99.3		
R5年1月	24.4	35.1	69.6	125.6	123.2	101.9	150.0	158.3	94.8		
R5年2月	25.0	33.9	73.7	128.1	129.3	99.1	153.1	163.2	93.8		
R5年3月	27.0	32.5	83.2	126.9	125.2	101.4	153.9	157.7	97.6		
※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」											
相場(月別)											
単位:円、%											
品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計				
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9		
R5年1月	805	649	124.0	422	330	127.9	1,227	979	125.3		
R5年2月	800	646	123.8	414	323	128.2	1,214	969	125.3		
R5年3月	799	631	126.6	411	316	130.1	1,210	947	127.8		
R4年度平均	702	627	112.0	371	317	117.0	1,073	944	113.7		
R5年4月	789	622	126.8	410	315	130.2	1,199	937	128.0		
R5年5月	(775)	624	124.2	(400)	321	124.6	(1,175)	945	124.3		
R5年6月	(750)	624	120.2	(390)	326	119.6	(1,140)	950	120.0		
※()は見通し											